

# 平成 21 年度社会参画活動育成事業報告書

外国人県民を支援する会

## 1. 事業の概要

### (1) 事業名

「外国人留学生による外国人県民の実態調査事業」

### (2) 事業の目的・概要

本事業は、外国人留学生が同じ愛知県に生活する外国人県民に対して実態調査を行うことで、地域社会の現状を知り参加していくことを目的として企画・実施されたものである。また、外国人県民の実態を明らかにし、本会（外国人県民を支援する会）から彼ら／彼女らへの支援方法を再検討すること、さらに、調査結果を広く社会に還元することにより、調査の対象となる外国人県民についても社会参画の可能性を広げることも目的の一つである。

具体的には、外国人留学生が各自の同国出身者である外国人県民に対し、生活・労働に関する聞き取り調査を母国語で行い、その結果を調査結果報告書としてまとめている。

### (3) 受託団体の概要

本団体は、名古屋大学大学院国際開発研究科に在籍する学生が中心となって運営している団体である。外国人県民に対する教育活動を行うことにより、外国人県民の社会参加を促進し、もって多文化共生社会の構築に寄与することを目的としている。本事業のほかに、通訳派遣事業として外国人児童やその両親に対して母語・英語教育を推奨するイベントや、交流事業として外国人留学生による自国文化の紹介イベントを企画・実施している。

## 2. 事業の実施状況

### (1) 実施期間

2009年8月～2009年3月

スケジュール:

2009年8月	調査者の募集・選考 調査内容の策定 調査準備 ・調査対象者への連絡 ・インタビュー内容の策定 予備調査の実施
9月	研修会の開催
10月～	実態調査の開始 調査の中間報告 調査を終了した者については、 順次報告書の執筆を開始
12月～	追加調査の実施
2010年3月	報告書の完成

### (2) 実施体制

本事業は、本会の事業担当スタッフ、名古屋大学の留学生に対し募集し、選出された「調査実施者」、そして「調査対象者」によって実施された。

具体的には、本事業を統括する「事業統括者」1名が事業全体の統括、「調査実施者」の監督、指導・助言、予算執行管理、調査準備、調査結果報告書の執筆指導を主に担当した。「調査実施者」5名は、愛知県内の外国人（調査対象者）に対する調査内容の企画・立案と実際の聞き取り調査を行い、調査結果報告書を執筆した。

### (3) 事業内容

#### (i) 研修

日時：2009年9月30日

場所：名古屋大学国際開発研究科内

講師：名古屋国際総合事務所 田澤満先生

テーマ：「愛知県の外国籍住民について」

研修の目的：外国人留学生が外国人県民への調査を適確に実施するために、外国籍住民に関する基本的な情報や、調査に際しての注意点等を確認する。

研修の内容：入管法、在留資格制度の説明、研修・技能実習生の概要、日本に生活する様々な外国人やそのコミュニティ等について、実践的な立場で日々外国人県民と関わっていらっしゃる田澤先生にお話しいただいた。

※研修のレジュメ、参考資料については添付資料の**参考1**を参照のこと。

参加者：外国人留学生（調査実施者）、本会会長、本事業統括者

#### (ii) 調査準備

実態調査の着手に先立ち、調査実施者の選考、調査内容の策定、聞き取り調査の質問項目の提案・決定を行った。

※調査実施者の募集要項、調査の質問項目については添付資料の**参考2**、**参考3**を参照のこと。

(iii) 実態調査

実施期間：2009年8月～2010年2月（予備調査、追加調査含む）

実施場所：愛知県内

調査実施者：名古屋大学に在籍する外国人留学生5名

調査対象者：外国人県民16名

○実態調査の概要

①調査概要

調査者	ファティヤ	Mary Jane Alcedo	張慧婧	宿金語	(非公開)
国籍	インドネシア	フィリピン	中国	中国	(非公開)
属性	①看護師候補者 ②介護福祉士候補者	介護労働者	会社員	会社員	研修生
人数	①2名(2) ②4名(1)	4名(4)	1名(1)	1名(1)	4名
内容	労働実態・生活実態				
調査地	愛知県内	名古屋市	名古屋市	名古屋市	愛知県内

※調査人数の（）内の数字は女性の人数。

②調査の成果

調査者	知見と課題
ファティヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語障壁により、患者や利用者への対応に苦労することがある。また、国家試験の合格が困難と考えられる。</li> <li>・文化的背景の違いにより、日本人職員との間に誤解が生じている。</li> <li>・宗教への理解が不足している(特に食習慣に関して)。</li> <li>・患者・利用者に対する態度・言葉づかいや仕事の分担システム(医師・看護師らとの協働)等を習得することができた。</li> </ul>
Mary Jane Alcedo	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに、仕事・家族・人間関係・言語に関する問題にぶつかったことがある。</li> <li>・現在の仕事環境に満足し、責任と自信を持って働いている様子が明らかになった。</li> <li>・できれば定年まで同じ職場で働き続けたいと考えている。</li> </ul>
張慧婧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語が堪能であるため、生活上の問題はほとんどない。</li> <li>・「文化的差異の問題」(価値観、労働習慣など)を抱えている。</li> <li>・母国を離れて暮らす外国人県民は、程度の差こそあれ、精神的に抑圧されている。</li> <li>・日本文化を尊重しながらも、中国人としての文化・習慣を維持しながら暮らしたいと思っている。</li> <li>・外国人が参加できるイベントをもっと多く開いてほしい。</li> </ul>
宿金語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生として来日した外国人県民が高度人材として活躍していることが明らかになった。</li> <li>・私費留学生に対する懸念(アルバイトをしている学生が多いため、学業がおろそかになったり、日本での生活を十分に楽しめないことがある)。</li> <li>・優秀な外国人人材を活用・育成するためのさらなる援助が必要であるだろう。</li> </ul>
非公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人研修生の来日経緯、仕事上の問題等、広範囲にわたる調査を実施できた。特に母国の状況等については留学生ならではの情報である。</li> <li>・対象の研修生は、労働を中心とした閉鎖的な生活を送っている。</li> <li>・日本語を学ぶ機会、日本での生活を楽しむ機会が必要。</li> </ul>

### 3. 事業の実施による効果

調査実施者・調査対象者・本団体への効果があったと考えられる。

#### (1) 調査実施者への効果

- ・同じ地域に暮らす外国人県民（特に、同国出身者）の生活・労働実態を直接把握することができた。
- ・外国人県民への調査とその実態を知ることを通じて、愛知県という地域自体を知ることになり、それによって地域社会へのより積極的な参画を意識し行うようになった。
- ・「多文化共生」について考え、意見を発信する機会を得た。

#### (2) 調査対象者への効果

- ・留学生との交流の機会ができた。同国人同士のイベントへの参加を促進した。
- ・来日して間もない時期に、日常生活や職場についての悩みなどを母国語で話すことで、安心できた。
- ・実態調査によって彼ら/彼女らが抱えている課題やニーズが明らかになり、今後の社会参画促進への礎となった。

#### (3) 本団体への効果

- ・「外国人県民を支援する会」として、支援の対象である外国人県民が抱えている課題を明らかにしただけではなく、彼ら/彼女らが直面してきた問題や困難をいかに乗り越えてきたのかを知ることができた。これらを踏まえ、困難を抱えた外国人県民に対して本団体がどうアプローチすべきであるか、またどのようなアプローチをすることができるかを再考することとなった。

#### (4) その他

- ・外国人留学生による、外国人県民への母国語を用いた調査という点において、研究報告としても詳細かつ良質な報告ができたと考えられる。

#### 4. 事業の実施に要した経費

項目	内容	金額
人件費	研修会講師謝金	40,000
人件費	調査者謝金	150,000
人件費	執筆に係る謝金	20,000
交通費	調査実施に係る交通費等	16,100
通信費	調査実施に係る通話料等	7,892
印刷費	報告書印刷費等	50,000
翻訳料	調査票翻訳料	10,000
文献費	コピーカード等	14,950
業務管理費	インタビュー機器等	91,057
合計		399,999

## 5. 事業の継続・発展の見通し、今後の課題等

### (1) 事業の継続・発展の見通し

本事業は、外国人留学生による外国人県民の実態調査として一定の成果を得たと考えている。

数量的な調査ではなく質的な調査結果を得ることとなったが、外国人県民の詳細な生活実態・労働実態を明らかにしたという点から、今後の本会の外国人県民支援手法を再考する機会となった。

また、今回の調査を通じて培った留学生と調査対象者とのネットワークを生かし、地域における県民同士の交流イベント等を企画できたらと考えている。さらに、調査対象者への継続的なインタビューをすることにより、本会の支援体制や愛知県が進める「多文化共生」に関する長期的評価を行うことも可能であろう。

### (2) 今後の課題

本事業により得た成果を本会の支援活動に生かすため、調査結果の再検討や、広く成果を発表することによって多様な意見・コメントを受けることなどを通じ、さらに本会の活動について考えていく必要がある。

また、今回の反省点である調査対象者の国籍の偏りを受け、愛知県における国籍別人口割合に応じての支援対象者の拡充の検討も望まれる。

## 6. その他参考事項